

## 1 題材の概要

題材名：「心のイメージを形+色に」～あの時・あの瞬間の感覚を、形と色に～

A表現（1）ア・イ「絵や彫刻などに表現する活動」

授業の概要：

生徒自身がこれまでに経験した感情をもとにイメージを膨らませ、学習した技法やそれを発展させながらイラストボード等を使って自身の感情を抽象的に視覚化し、作品として制作する表現の題材。

	目標	評価規準	評価資料
知識 ・技能	形や色彩、その組み合わせに着目してイメージをとらえ、絵の具などを使った技法やイラストボードなどの材料を生かして表すことができる。	イメージをもとに、新たに学習した表現技法や、それを発展させながら形や色彩で表している。	ワークシート・作品
思考 ・判断 ・表現	自分自身が経験したことから生まれた感情や、そのイメージをもとに形や色彩、構成などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりすることができる。	表現したいと考えたことを、自分自身のイメージと合致させながら形や色彩を使って構成したり、鑑賞したりしている。	作品・ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	自分自身の感情や、そのイメージを形や色彩で表すことに興味を持ち、表現するために意欲的・探究的に取り組むことができる。	とらえたイメージを視覚的に表現することを楽しみ、試行錯誤しながら活動に取り組んでいる。	授業への取り組み ・ 振り返りの記述

## 2 題材の展開 題材の流れ（全12時間）

1	①「心のイメージを形+色に」という題材を知る ②「視覚以外で捉えられる感覚」を考えロイロノートに提出。同クラスや他クラスから提出された感覚を共有する ③②の発展として、「〇〇の時、〇〇の瞬間に感じた感覚」について考え、ロイロノートで提出する
2	④「心のイメージを形+色に」トレーニングワークシートに取り組む（全員共通の「甘い」「辛い」「すっぱい」の味覚から捉える感覚・4感（味覚、聴覚、嗅覚、触覚）の中から選択・自分で設定する感情から捉えられる感覚を、色鉛筆やマジックを使って表す。） ⑤自分自身が経験した「あの時、あの瞬間」についてワークシートを使ってアイデアを出し、作品とする感覚について考える ⑥本作品制作に活用する技法「モダンテクニック」を知る
3	⑦第2時⑤で行ったワークシートについておさらいしながら自分自身が経験した感覚を思い起こし、作品テーマを決める ⑧第2時⑥で提示されていたモダンテクニックについて、動画や美術資料を見るなどして知る（おさらいする） ⑨興味を持った「モダンテクニック」の実験をする（実験が作品となっても良い）
4	⑩モダンテクニック実験の続きを行い、実際に作品に使用する技法を決定する ⑪⑩と並行して構想を練り、決定版の作品テーマや、形と色のアイデアスケッチを描くワークシートに記入する ※モダンテクニックは以下10技法を導入（これらの組み合わせ、発展的な技法は自由とする） ・コラージュ ・スパッタリング ・フロッタージュ ・パチック ・ステンシル ・スクラッチ ・マーブリング・デカルコマニー ・ストリング ・ドリッピング（+吹き流し）

## 2 題材の展開 題材の流れ (全12時間)

5	⑫作品の形の軸となるB4サイズ2mm厚のイラストボードに形の構想を練って下描きし、電動糸のこぎりやハサミなどを使って切断する ⑬本作品は1つの形として構成することが条件であることを知り、作品の形の構成や接着の方法などの手立てを考える
6~10	⑭イラストボードの切断、接着、モダンテクニックなどの着彩に至るまで、授業時間の中で自分なりの計画を立てながら制作を進める ※毎時間、ワークシートまたはロイロに授業振り返り提出 ※第9時に制作途中の作品を撮影し、ロイロノートで提出
11	⑮完成作品を提出する ⑯作品解説キャプション制作※途中段階の内容を撮影してロイロノートで提出する
12	⑰完成作品・キャプションを撮影し、ロイロノートで提出する ⑱授業振り返りおよび授業アンケートに回答する

### 本時の目標

自分自身が感じた感情が、どのような形や技法によって表現することができるか、試したり、実際につくったりして試行錯誤しながら見つけ出す。

### 本時(6/12時)の流れ

1. これまでの授業で構想したことのおさらい・アイデアや実験成果の共有(10分)
2. 作品のイメージをもとに、イラストボードに対して形づくりやモダンテクニックなどをつかった着彩を、実験を含めながら制作を行う(35分)
3. 活動のふりかえり入力。(5分)

### 本授業で育てたいグローバル・コンピテンス

#### この学習課題に取り組む

これまで自分自身が経験した感情や感覚をもとに、そのイメージを形や色彩に置き換えながら、作品として表現していく。

ことで

#### こんなグローバル・コンピテンスを発揮した学習者の姿が生まれる

自分自身の経験から生まれた感情を、形や色彩として表現していくことで、様々な印象に残った経験について深く考え、未来に向けた前向きな姿勢が育まれる。また、他者が抱く感情や表現を知ることで、表現者の感覚に興味・関心を抱き、それぞれの表し方への理解を深める姿勢が生まれる。作品制作や鑑賞の活動を通して、決まりや正解のないものへの魅力を自分なりの価値観や表現者の価値観を認めながら捉えることができる。

### 焦点化して育みたいグローバル・コンピテンス

定義	【グローバルな問題の発見・検討】 地域、世界、異文化間の問題を検討し、 【異文化・他者理解】 他者の視点と世界観を理解し認め、 【異文化間交流】 異なる文化を持つ人々とオープンで適切で効果的な関わりを持ち 【企画・行動】 共同体の幸福(ウェルビーイング)と持続可能な開発のために行動する能力			
要素	知識 グローバルな問題や、異文化理解に関する知識。 1. 地理的知識 2. 歴史的知識 3. 社会・文化的知識 4. 経済的知識	スキル 異文化間コミュニケーションや、グローバルな問題の解決、批判的思考などのスキル 1. 異文化間コミュニケーションスキル 2. 問題解決スキル 3. 批判的思考スキル	態度 異文化、他者への理解と尊重を深める積極的な態度 1. 開放的で柔軟な態度 2. 他者を尊重する態度 3. 社会的・環境的責任を果たす責任感	価値観 異なる文化を持つ人々との協力と対話を促進する価値観 1. 公平性と公正性 2. 持続可能性 3. 平和(対話・協力・共存)